



འབྲུག་རྒྱལ་ཁབ་

ブータン便り

2019年4月8日
第8号

クズザンポーラ！4月に入って日本は桜の見頃を迎えていることでしょう。ティンプーでは3月上旬から薄紅色の花が咲き始めました。それをブータン人は桃の花と言いますが、倉敷で見る桃の木とはちょっと樹形が違います。気温も上がりはじめ、最近ではアパートで暖房をつける必要もなくなりました。待ちわびた春がやってきて、気分も上々です。

さて、今号では、ブータンのお祭りツェチュについてお伝えします。

ツェチュ (Tshechu)

ツェチュとは「月の10日」を意味する宗教行事で、ブータン各地の寺で年に一度開催されます。ブータンに仏教を伝えたグル・リンポチェ（パドマサンババ）の誕生日が、ブータン暦の月の10日目であったことにちなむと言われています。実際のツェチュの開催月は寺ごとに違うので、年中を通して全国各地のツェチュを見て回ることができます。

ツェチュでは、仮面のダンサーや黒帽をかぶった僧侶による躍動的な踊りや、村人によるしっとりとした伝統舞踊が演じられます。ほかにも巨大な閻魔大王が闊歩したり、アツアラという道化がパントマイムで観客を笑わせたりと、様々な演目があって楽しめます。

3～5日間に渡るツェチュ期間中、その地域は祝日になり、多くの見物客で賑わいます。なかでも女性たちは数万円もするような晴れ着（キラ）をこの日のために着て来るので、それを眺められるのもツェチュの醍醐味といえるでしょう。



プナカ・ツェチュの踊り



プナカ・ツェチュの見物客

パロ・ツェチュ

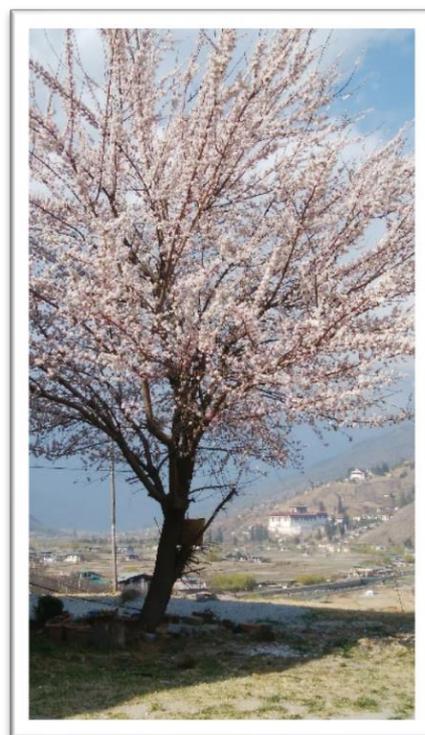
毎年春にパロ・ゾン付近で開催されるパロ・ツェチュは、秋のティンプー・ツェチュと並ぶブータン最大のお祭りです。それに合わせて外国人観光客もたくさん訪れます。旅行業界に携わる者としては見ておくべきと考え、初日と最終日の5日目に行ってきました。

初日 (3月17日)

初日はパロ・ゾンの中で伝統舞踊や仮面舞踊などが見られました。ゾンの中に入るためには、ゴの上にカブニ、キラにはラチュといった肩にかけるスカーフが必要です。ゴやキラを着ていない外国人はそのまま入れてくれるのですが、ゴを着ているけどカブニを忘れた JICA ボランティアで、入場を断られた人もいました。



パロ・ゾン側へ渡る橋



満開の桃の木、パロ・ゾン遠景



ゾン内は見物客で溢れかえる



黒帽の踊り

5日目 (3月21日)

最終日はトンドルという巨大な仏画が見られるというので、夜中の3時にパロ・ゾンに隣接するデヤンカ広場へ繰り出しました。トンドルは年に一度だけツェチュの最終日にご開帳されます。それも日の出前から陽が差す前の10時ぐらいまでのわずかの時間だけ。まだ暗い4時ごろ、中心にグル・リンポチェが描かれたトンドルがゆっくりと広げられていきました。その後トンドルの前で僧侶たちによる法要が営まれる中、列をなす参拝客がトンドルの前に進み無病息災を祈っていました。



ゆっくりと引き上げられるトンドル



トンドルに祈りを捧げる人たち

そして、8時半ごろ第5代国王が参拝のためお出ましになった瞬間、何千人もいる広場の空気が一気に変わりました。国王は国民のいる観覧席に座り、しばらく伝統舞踊などをご覧になってから、出待ちの人々がなす行列の間をとお帰りになりました。私も出待ちの列に加わり、初めて国王のお顔を近くで拝することができました。国王はときどき立ち止まって道沿いの人々と言葉を交わされ、私も「Have a wonderful stay.」とお言葉を掛けていただきました。なお、国王にカメラを向けることは厳しく禁じられているので、写真はありません。



黄色いカブニをかけているのが国王



国王を待つ人たち